

あかりみらい通信特別号

お役にたてば幸い劇場

第1回

今回から12回にわたり皆様の経営、危機管理などにお役に立つ情報と提言を連載します。

第一回は危機管理について。

今3年目となった新型コロナウイルスの社会経済への影響が問題視されています。デルタ株とは違い感染力が高いが重症化も死亡率も低いウイルスに對してどのように対処するか議論されています。危機管理の原則である「正しく恐れよ」の判断基準は社会経済生活の維持のフェーズになっています。これから永遠に続くウイルスとの共生の中で今のレベルの感染被害で社会経済全体を麻痺させてはいけません。過剰反応と集団ヒステリーの時代は終わりました。もう手洗いとアクリルだけでは意味がありません。空気感

染を予防する空気清浄機や次亜塩素酸水の超音波加湿器などいろいろな機材が開発され手に入るようになっていきます。「自分の命と家族の健康は自分で守る。」これも危機管理の原則です。一方で昨年12月24日に日本海溝・千島海溝地震に伴う津波で北海道で13万人が死亡する史上最悪のシミュレーションが発表されました。太平洋沿岸市町村とそこに店舗、工場、出先を置く企業はなによりこれを最優先に命を守る対策を作る必要があります。13万人が間違いない死亡する危機とほとんどの人が亡くなつていない感染症と正しく恐れるバランスある危機管理が求められます。今回は津波対策への考察を。

検索↓あかりみらい

筆者紹介

株式会社あかりみらい代表取締役 越智 文雄

1980年北海道大学法学部卒業後北海道電力入社。電気事業連合会企画部副部長、北海道洞爺湖サミット道民会議事務局次長、北海道経済同友会などを歴任。電力業界で初代の危機管理担当室長の経験から自治体企業へのアドバイザーとして活躍。環境・エネルギー問題の専門家。(一社)次亜塩素酸水溶液普及促進会議代表理事、日本除菌連合の会長を務める。

